

◎企画財政部長（林俊明君） 私も小川議員と同様に、団塊の世代でございます。そして、友達の多くが都会で生活をされておいでます。近々定年を迎えますが、帰ってきてほしいと思う反面、白山市の人口ピラミッドがなお一層いびつになるのではないかという一抹の不安も覚えながら、団塊の世代を白山市、とりわけ白山ろく地域に呼び込む施策についてお答えいたします。

白山市では、既に交流居住を推進させるため、白山里やミント・レイノなどでの貸し農園による農業体験や、瀬女地区における民宿、ペンションのオーナーのための土地分譲などについて総務省のホームページに参加し、随時情報を提供しているところであります。

御指摘のように、自然豊かな白山ろくに団塊の世代やUターン者の定住化を促進させるため、その前段として都市で生活を送りながら、地方で家庭菜園などの趣味の時間を過ごすという二地域居住を進めることとしております。

このため、白山麓地域未来創造研究会を設け、地元の方々と一緒に実際に受け入れすることができる地域特有のメニューを整理するとともに、白山ろく地域における空き家調査を行っているところであります。

建物の状況、所有者の意向等、その詳細を把握しながら、定住化の促進に向け積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（角田正明君） 急速に進む高齢社会と団塊の世代への対応についてであります。高齢社会の進展とともに、団塊世代に求められるのは、福祉は与えられるものではなく、それぞれの地域の中で中核的な推進役としてみずから参加し行動する役割を担っていくべきと考えております。

本年4月に改正されました介護保険制度は、まさに本格的な超高齢社会の始まりに対応するための改正であります。

本市の第3期の介護保険事業計画においても、団塊の世代の高齢期到達や、認知症及びひとり暮らし高齢者の増加が見込まれ、高齢化率が21%を超える超高齢社会に対する介護予防を重視した事業計画と、「健康な65歳から活動的な85歳を迎えるために」をスローガンとした高齢者の健康づくりと生きがい活動の推進を重視した高齢者保健福祉計画の見直しを行い、本年度の事業に取り組んでいるところであります。

健やかな老後を実現するためには、幼児期からの健康的な生活習慣の確立が大切であることから、市民の主体的な健康づくりとして、平成19年度から平成28年度までの10年間

の行動計画「白山市健康プラン」を作成しております。

ことし4月に開設いたしました市内2カ所の地域包括支援センターを拠点に、介護や病気の予防を推進する対象者の把握、運動機能の維持向上や栄養改善の助言指導サービスを提供するとともに、高齢者一人一人がみずからの能力を生かす中で、社会参加や健康づくりの主体的活動を支援する社会環境整備に取り組むこととしております。

いずれにしましても、だれもが経験していない超高齢社会の団塊の世代みずからが中心となって、生き生きと暮らす地域社会づくりの担い手となるよう期待するものであります。

以上でございます。

平成18年 12月 定例会（第4回） - 12月11日 - 02号 - P.30

◎産業部長（森良次君） 企業における労働力の確保と人材の育成についてお答えいたします。

長年にわたり蓄積された専門知識や技能を有する人たちが、定年退職を迎え一斉に退職することは、企業の活力を維持する上でも重要な問題であるととらえております。

こうした中において、国では高年齢者雇用安定法を改正し、平成18年4月1日より定年の引き上げや継続雇用の導入等を段階的に進めているところであります。

また、県においては産業技術専門学校において、団塊の世代の熟練技術者を講師としたものづくり技能継承塾を開設し、若年技能者の技術向上への取り組みを始めたところでもあります。

市といたしましては、多くの団塊の世代の方々の方々の退職が間近に迫っている中、高年齢者雇用安定法を初め、ものづくり技術の伝承の大切さを企業協議会等を通じて各企業に広く周知徹底するとともに、白山市技能功労者表彰等を通じ、長年培った技術の継承の大切さについて呼びかけてまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。